

enodraw ver.1.004.007 リリースノート

PDF出力時、フォントが強制的に太字になるのを修正

PDFリーダでの表示/印刷イメージは、同一フォントを選択したEnodrawでの表示/印刷イメージに比べて薄い為、FAXやコピー時に字がかすれるという不具合があり、PDF出力時には強制的に太字フォントを選択し、文字列プロパティで「太字」をONにした場合は、太字フォントをより太くする為に、特殊な縁取りモードを設定するという手法をとっていました。

ただ、それが原因で、フォントの種類により太字にならなかったり、PDFリーダでの閲覧時に画面描画が極端に遅くなるなどの弊害がありました。

今回は強制的に太字フォントを選択するのを止め、通常のフォントに変更、「太字」をONにした場合に太字フォントが選択されるようにしました。

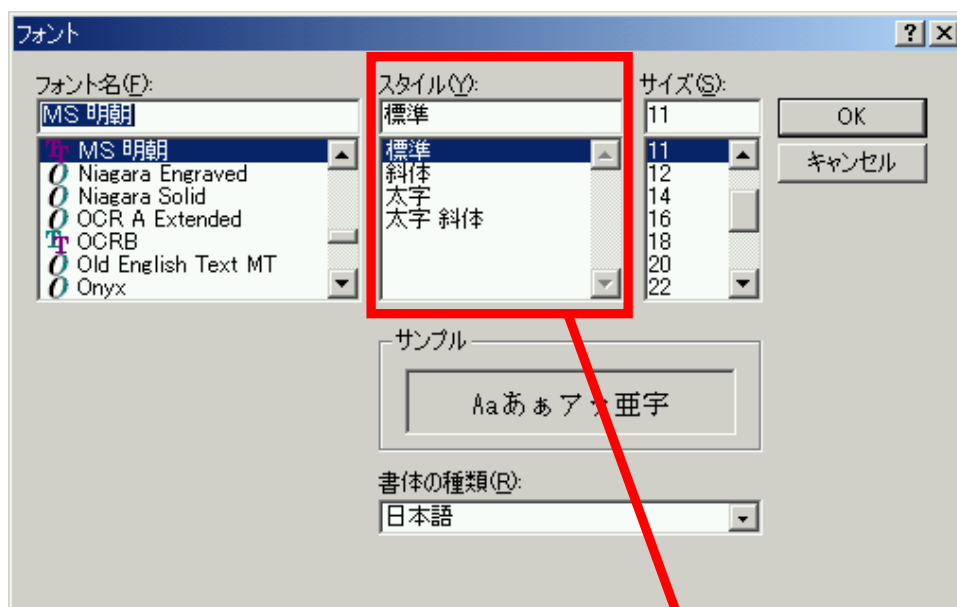
今後はWindowsにおいても多種多様なフォントが使用されるようになる事や、インターネットの普及によりFAXやコピーが意味をなさない事に起因しています。

注意事項

本バージョン以前で作成された文書を読み込み、そのまま保存すると、何も編集していなくても、PDFリーダで閲覧した時のフォントが薄くなります。これについて問題がある場合は、次項の機能を用いて太字のフォントを設定する事で改善できます。

フォント選択にてフォント名以外に「太字」や「斜体」を指定できる機能を追加

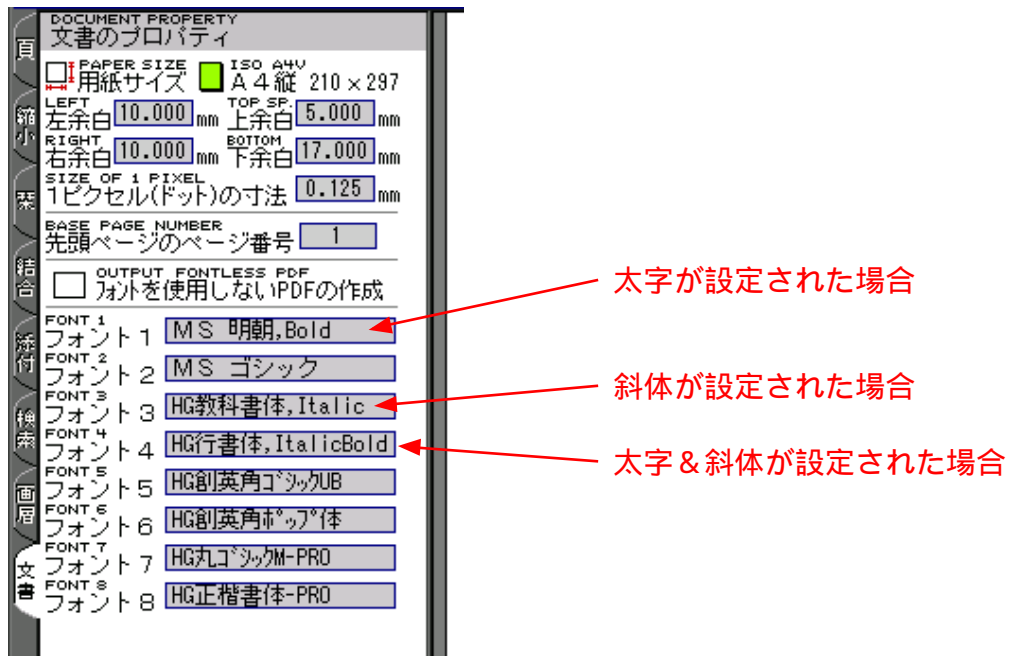
フォント選択ダイアログではフォント名、太字/斜体、サイズなどが指定できますが、実際に設定できるのはフォント名だけでした。今回、「太字」や「斜体」を指定できる機能追加を行いました。フォント選択ダイアログで「太字」や「斜体」を指定すれば、文字列のプロパティにて太字/斜体をONにしなくても、指定された通りの属性になります。



この部分の設定が有効になりました。

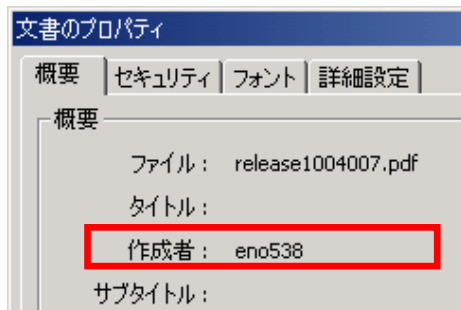
(次ページに続く)

太字や斜体が選択されている場合、フォント名表示の末尾に、「,bold」や「,italic」が付加されます。



但し、太字のフォントを選択した場合、文字列のプロパティの太字ON/OFFは無効で常に太字となります。同様に、斜体のフォントを選択した場合、文字列のプロパティの斜体ON/OFFは無効で常に斜体となります。

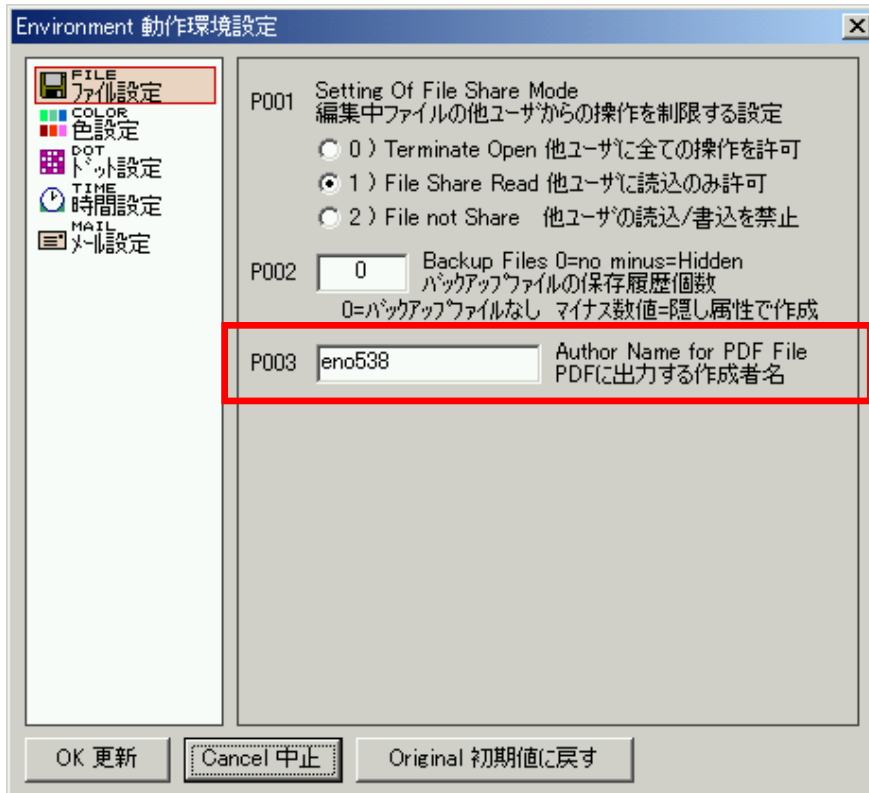
PDFファイルの作成者名を動作環境設定にて設定できるよう変更



PDFリーダにて「文書のプロパティ」を表示させると、「概要」タブに「作成者」の表示があります。最近ではPDFが標準的な文書フォーマットとなった為、この情報がPDF文書システム等で使用される可能性があります。今回これを「動作環境設定」の「ファイル設定」で設定できるようにしました。

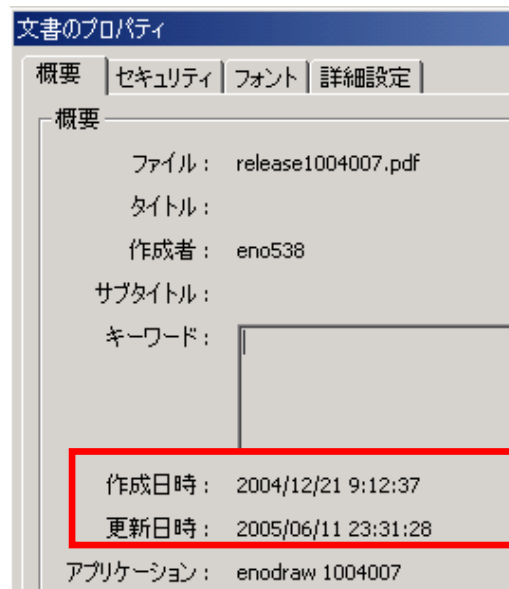
「動作環境設定」はユーザ別にアプリケーションが保持している部分ですから、一度設定することにより、以後作成する文書全てに設定した作成者にて出力されます。

(次ページに続く)



PDFリーダでのファイル時刻表示の修正

作成者と同じく、PDFリーダの文書プロパティには、PDFファイルの作成時刻、更新時刻が表示されます。ところが、Acrobat Reader6.0 までのファイル時刻表示は、国際標準時をローカル時間で表示してしまうというバグがありました。その為、本ソフトにおいても同様の不具合がありましたが表示は正常でした。今回、Adobe Reader7.0 にて時刻表示の不具合が修正された為、表示時刻がズレましたので、これを修正しました。但し、作成時刻については、新規作成時の時刻を設定していますので、既に作成された文書に対しては、更新時刻のみの修正となります。



(次ページに続く)

鉛筆マウスカーソルの先端を反転色に修正

黒い背景上で作画をおこなった時に、マウスカーソルの先端（ホットスポット）が黒色だと、先端が見えなくなってしまうので、反転色に変更しました。



- 以上 -